

## 岐阜県立各務原高等学校運営協議会（第3回）会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和4年1月27日（木）～ 2月14日（月）
- 3 開催方法 書面開催
- 4 参加者

会長	長倉 守	岐阜大学大学院教育学研究科准教授
副会長	小川 陽子	新生こどもえん園長
委員	奥村 篤	各務原市立中央中学校長
	福田 尚巳	各務原市市役所いきいき楽習課
	堀 善子	各務原市教育委員会総務課・ふるさと教育アドバイザー
	五反田 明	本校PTA会長・五大自動車工業取締役
学校側	細井 恒樹	校長
	林 昭男	教頭
	溝下 肇	教頭
	新田 雄一	事務長
	関谷十糸子	教務主任
	松久 潤	生徒指導主事
	原 裕子	進路指導主事
	梅野 剛	特別活動部長
	片桐 豊	渉外部長

### 5 会議の概要（協議事項）

#### （1）各分掌による自己評価について

##### ① 教務部

意見1：「生徒の実態把握とそれに応じた授業改善の必要性」に強く共感する。今の生徒は生まれたときからネットワーク社会で育ち、一方向のレクチャーを受けて知識を身に付けたり必要な情報を見つけ出したりすることは得意であるが、それらに関係づけたり既知のものに関連付けたりすることは不得手であるように思う。また、活字（メール等）での発信はできても、自分の主張や思いが相手に正しく伝わり、理解してもらえるように表現する力は十分とは言えず、授業においても大切にしたい視点の一つである。

意見2：学習指導の充実の評価が「B」であるが、コロナの影響もあって短い期間でタブレット端末が導入されて大変だったと思う。しかし、数年経てば小中学校時からICTに親しみ、ITに長けた生徒も入学するだろう。「A」を目指してほしい。

意見3：資質、能力の向上を目指して、習熟度別授業の実施やICT活用等の授業改善に尽力している。

意見4：生徒にとって学校生活のなかで最も長い時間は授業時間であり、「自分ならできる」という授業における自己効力感から学校生活における精神的な安定が生まれる側面がある。また、生徒を主語にした教育が強く求められるようになってきている。そこで、生徒による授業評価（生徒の率直な声）を活かした授業改善をいっそう進めてほしい。

意見5：どの教科のどの部分でつまづいているのかを見つけ、そこで十分な時間を費やすことで理解の流れがよくなる。

意見6：ICTの活用が進み、学習用アプリなどの活用で学び直しなど個々に応じた対応の充実させることはとてもよい取組である。

## ② 生徒指導部

意見1：「全職員の共通理解」の項目が「C」であるが、情報が共有されるよう取組を進めてほしい。

意見2：生徒はとても落ち着いており、教員の指導の賜物であると感じる。「遅刻や身だしなみ指導」や「ルールやマナーの遵守啓発」の自己評価は「A」でよいと思う。

意見3：生徒がマナーに則って自転車や徒歩で通学する様子を見て、ルールやマナーが十分生徒に伝わっていると感じる。

意見4：生徒の生命や人権、何より安全や安心確保のために丁寧に取り組んでいる。

意見5：生徒の日々の行動をそれとなく褒め、自信と誇りを育てていくことにより、マナーや身だしなみはよい方向に変化していく。

意見6：「指導」ではなく「育成」の気持ちで皆が向き合えると、よりよい化学反応が起きるような気がする。

## ③ 進路指導部

意見1：多くの生徒が進学希望で、複雑化する大学入試制度の中、丁寧に指導されていると感じる。また来年度に向けて「キャリア教育の充実」が視点にあることに共感する。どこの進学先を選択するかとともに、自分はどんな生き方をしたいのか、どんな地域社会人になりたいのか等、生徒自身が考える機会が増えることを願う。

意見2：「各種進路ガイダンス」の自己評価が「B」であることは、少々残念である。1年生の早い段階から、高校3年間ですべきこと（ロードマップ）や評定の見方などを説明し、早期に目的意識を持たせる取組を採り入れてほしい。

意見3：社会状況や入試の変化を捉えつつ、系統性を考え、学年に応じて取り組んでいる。インターンシップや地域課題探究型学習等の体験的・探究的な学びの成果を、総合型選抜や学校推薦型選抜等に引き続き繋げてほしい。

意見4：コロナ禍の安定しない学習環境においてどのように指導していくのかは難しい問題だと思うが、やはり最も大切なことは「授業第一に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる」ことである。

意見5：就職は大きく言えば生涯にわたる問題なので、企業開発の専任教員の育成が大切になってくる。

意見6：社会における対応力の指導を引き続き行ってもらいたい。

## ④ 特別活動部

意見1：コロナ禍にあって活動に制限がある中、生徒会行事や部活動等の実施は大変だったと思うが、良い高校生活の思い出が増えるよう工夫できるとよい。

意見2：部活動も行事も思うように行えない中、物足りなさを感じている生徒もいると思う。できる限り球技大会やICTを活用した文化祭など、感染リスクが少ない行事を実施でき

るとよい。

意見3：特別活動は、校訓「開拓者精神—創造・挑戦・協同—」に向けた教育活動の中核を担う領域であると思う。生徒会の取組や行事を通じて、生徒の合言葉として、「開拓者精神（フロンティア・スピリッツ）」が語られるようになるとよい。まずは生徒に考える機会を与えるのもよいかもしれない。

意見4：昨今、部活動は社会問題化し、教員の負担軽減対象の第一に挙げられているが、生徒にとっては自己表現できるよい機会であり、自分に目覚める機会でもある。すべての教員でやろうとせず、外部講師への依頼、ボランティアの活用を大いに受け入れる工夫が望まれる。

#### ⑤ 保健厚生部

意見1：コロナ対策や環境美化等に、日常的・継続的に丁寧に取り組んでいる。引き続き、生徒の安全・安心を第一に取り組んでほしい。

意見2：コロナ対策の取組について、生徒も教職員も消毒など「もうこれ以上のことは難しい」と思えるほど徹底されているように感じるので、個別や総合評価は「A」でよいのではないか。

意見3：大地震や異常気象等非常災害時の対策として、地域との連携をお願いしたい。

意見4：環境美化について、日々の意識を向上させることが大切である。2階以上の窓ふきは生徒の事故防止のため外部依頼がよい。

#### ⑥ 図書情報部

意見1：素晴らしい木製の図書館が完成し、今後の活用に期待したい。

意見2：木質化された図書館は明るく、気持ちのよい環境である。視聴覚設備についてはICT本格導入の流れに乗って、整備に着手できるとよい。図書館に検索性PCを導入するのもよいと思う。

意見3：今日的に求められる教育活動（主体的・対話的で深い学び、各教科における探究、総合的な探究の時間等）に応じた図書を充実し、学習センターとして機能するよう、引き続き整備をお願いしたい。

意見4：社会全体がフワフワしている現状で、落ち着ける場所としての開放はいかがか。また、啓発活動は工夫を凝らして継続してほしい。

意見5：「生徒自身が作る図書館」は素敵で、新しいコミュニティが生まれる期待がある。

#### ⑦ 教育相談部

意見1：アンケートや各種検査等も活用し、生徒の様子を丁寧に把握していると感じる。生徒が抱えている困り感は様々であろうが、昨今の発達障がいや生徒自身の特性に起因する人間関係に深い悩みをもつ生徒が増えているような感じを受ける。まわりの大人が発達障がいへの理解と対応に意識を向けることも大切である。

意見2：生徒個人の問題の洗い出しや生徒間の問題の把握、そしてそれらの問題への対応など、きめ細やかになされていることが分かる。

意見3：アンケート結果において「わからない」という回答が多く、自己評価をつけることが難しかったのではないか。「わからない」を減らす努力が必要である。

意見4：構成的グループエンカウンターやスクールカウンセラーによる研修会、情報交換会等、さまざまな取組がなされている。引き続き、生徒の安心に向けた取組や職員の研修等を重ね、一人一人の状況に応じ、専門家や専門機関と連携しつつ、生徒に向き合ってもらいたい。

意見5：人の考えや想いをしっかり聞き、自分の考えや想いを人に伝えることで対話が生まれる。両方の力をバランスよく生徒に教えてほしい。社会で生きるため本当に大切な力だと実感する。

#### ⑧ 渉外部

意見1：PTAや同窓会事業がほとんど行えなかったということで自己評価が「C」となっているが、外部への情報発信は大切なので、頑張してほしい。ZoomやYou Tubeを活用して、非接触型の活動を実施している団体はある。

意見2：コロナ禍において、行事のほとんどが行えなかったことはやむを得ないことだと思う。来年度もこの状況が続くと思うが、ICTを利用するなど可能な範囲でPTAや地域と連携してほしい。

意見3：「誇れる母校」となるべき情報を発信し続けてほしい。

#### (2) 地域課題探究学習（ふるさと教育）のまとめについて

意見1：「ふるさと教育」は興味深い学習である。地域資源の活用は大学での研究テーマにされるので、大学での学びにも繋がり、地域の魅力を考察する中で自らの進路を考える機会になる。今後は、充実した情報収集の仕方や魅力的なプレゼンテーションのあり様等について深めていけるとよい。

意見2：地域の企業、各種団体の方と実際に会い、話が聞けることに意義を感じる。その方々がどのような活動、取組をしているかはもとより、それをどんな思い、願いをもって取り組んでいるかが直接聞けることは、キャリア教育との関連性もあると思う。

意見3：生徒と地域の方が積極的に関わり、探究できるよう、校内の手続きを簡略化した方がよい。担当者の負担が大きいため、学校全体で取り組んでほしい。今回のパンフレット作成は調べ学習だけに終わっているのが残念である。本来ならば、調査した人に文の校正を依頼することや写真掲載、ネットからの転用などに関して、情報リテラシー（モラル）の更なる充実も必要であると感じる。探究型学習では、こうした社会のルールやモラルを地域の人が教えてくれるので、もう少し生徒を外に出した方がよい。

意見4：不特定多数の市民に各務原市への思いをインタビューしたり、市民の出身地（都道府県）を調査したりすることから課題が見つかっていくのではないかと。

#### (3) 「スクール・ポリシー」について

意見1：生徒自身の能力とともに、地域へ目を向けられる人間を育てたいという強い意志が感じられ、賛成する。

意見2：校訓が目標に入り、とてもよい。特色ある各務原高校を作り上げてほしい。

意見3：歴史を感じながらも、新しく素晴らしい校訓である。各務原高校らしく、ぶれない精神力と柔軟な表現力を育成してほしい。

意見4：全体としてはよいが、「多様な価値観…」の部分について少々分かりづらさを感じる。

#### 6 会議のまとめ

- ・今年度の各分掌の自己評価や地域課題探究型学習について、委員の方々から貴重な意見や提言を得られた。次年度の学校運営計画に採り入れていく。
- ・「スクール・ポリシー」について、承認が得られた。